

## はじめに

---



令和3年3月

大村市長 園田 裕史

本市は、多良山系や大村湾などの豊かな自然環境に恵まれ、長崎空港や長崎自動車道、令和4年秋開業予定の九州新幹線西九州ルートによる高速交通網、新たな教育拠点である県立・市立一体型図書館「ミライオン」などの優れた都市機能を有する、長崎県の県央地域における中核都市として着実な発展を遂げ、全国的にも数少ない人口増加を続けている自治体です。

しかし、将来的には人口減少や高齢化率の増加が予測されており、本市でも、社会情勢の変化に伴う働き方や生活様式の変化、さらに地域における住民同士のつながりの希薄化などに直面しており、私たちの地域社会は大きな岐路に立っていると云わざるを得ません。

本市においては、これまで「第1期おおむら支え合いプラン（大村市地域福祉計画・大村市地域福祉活動計画）」を策定し、「向こう三軒両どなり みんなつながり支え合い いきいき安心 おおむらづくり」の基本理念のもと、地域福祉の向上のための取組を進めてきたところです。

このたび、令和3年度から令和12年度までを計画期間とする「第2期おおむら支え合いプラン（大村市地域福祉計画・大村市地域福祉活動計画）」を策定し、これまでの基本理念を継承しながら、地域住民同士の支え合いの仕組みづくりを土台に、生活困窮者支援の充実や成年後見制度の利用促進などに取り組むこととしています。

今後も、住民、関係団体、行政などが連携して身近な生活課題の解決に向き合う「地域共生社会」の実現に全力で取り組んでいきますので、一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、ご尽力いただいた大村市地域福祉計画推進委員会の委員の皆様、アンケートにご協力いただいた市民の皆様や関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

## はじめに

---

令和3年3月

社会福祉法人 大村市社会福祉協議会会長 有川 晃治



少子高齢化が進む中、私たちの暮らす社会では、地域の支え合いの希薄化によるひきこもりなどの社会的孤立や、生活困窮者の増加、介護や権利擁護への不安など、さまざまな課題が表面化しております。

このような中、あらゆる地域生活課題への対応と地域のつながりの再構築など包括的な支援体制づくりが求められております。

大村市社会福祉協議会では、平成23年度に大村市とともに第1期の「おおむら支え合いプラン（大村市地域福祉計画・大村市地域福祉活動計画）」を策定し、「向こう三軒両どなり みんなつながり支え合い いきいき安心おおむらづくり」を基本理念として、地域福祉の推進に取り組んでまいりました。

また、近年は、豪雨災害や地震などの自然災害も多発しており、令和2年7月の豪雨災害では、本市社協では初めての災害ボランティアセンターを設置して被災された方々の生活復旧に努めたところです。

今回の第2期「おおむら支え合いプラン」は、これまでの基本理念や施策を引き継ぐとともに、災害時の生活復旧など新たな課題にも対応する計画として策定いたしました。

これからも、当社会福祉協議会役職員一丸となって、住民の皆様をはじめ、行政、関係団体・事業所と連携を図りながら、地域福祉の推進に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。